

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4792400030		
法人名	株式会社 ベストビジネスコミュニケーション		
事業所名	認知症対応型グループホーム結の郷		
所在地	沖縄県中頭郡北谷町吉原1180-1		
自己評価作成日	平成29年1月22日	評価結果市町村受理日	平成27年 4月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhou_detail_2016_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=4792400030-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhou_detail_2016_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=4792400030-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205
訪問調査日	平成29年 2月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様一人一人のペースに合わせてゆったり過ごせるように寄り添い、落ち着いた環境で共に生活しています。ご家族様は気軽に施設に訪れゆったり過ごされています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、住宅地で車道に面した3階建ての住宅を改造し、1階は車庫、2階は居間兼食堂及び台所で3階が居室となっている。2階と3階間にはエレベーターで行き来し、2階から屋外への移動にはスロープを設置している。開設3年8か月余を経過している。日中は主に2階のフロアで過ごし、ソファやベッド等も活用し、利用者の居場所が確保されている。3食とも職員が調理し、利用者は居間や食堂、台所のテーブル等、本人が過ごしたい場所で食事を摂る等、柔軟な対応がされている。各居室の異なりを表す工夫として壁紙やカーテンの配色を変えたり、利用者にも明るい部屋の雰囲気を感じてほしいとの思いで、窓のカーテンを開けたり、電気を付ける等の配慮をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年 4月18日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月一回の職員ミーティング時に全職員で理念を読み共有しています。	理念は、開所時に経営者の信念で、利用者の尊厳の他に5項目を掲げている。職員は排泄等の支援時のプライバシーへの配慮や、家族のように接する事、個々の居場所作り等が理念の基軸と理解し、利用者及び職員相互のコミュニケーションを大切にした実践を心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区長さんからの地域行事案内文配布や連絡があり参加に努めています。又近隣住民と挨拶を交わし、取り立ての野菜などの差し入れがあります。町民運動会参加しています。	事業所は、密集した住宅地の中に位置しており、職員は近隣の方とは常に挨拶を交わすよう努めている。職員は区の消防訓練に参加したり、毎年恒例行事の町民運動会に利用者数人が車椅子リレーに参加する等、地域と交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	RUN伴に参加(地域の人たちと出会い認知症について考える機会)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の活動状況等を報告し、委員から地域の情報提供やイベント参加への呼びかけがあり職員、入居者様が参加させて頂く機会があります。	運営推進会議は、利用者・家族・行政職員・社協・民生委員・区長等が出席し、開催している。行事や事故報告なども行われている。委員間の活発な意見交換も議事録で確認できた。会議は職員の勤務調整の都合で、今年は4回の開催となっている。	運営推進会議は規程により、おおむね2か月に1回以上、年6回の開催が求められており、定期的な実施、及び議事録の公表も望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から役場や地域包括センターを訪れ制度に関する事、勉強会の案内の連絡等もあり協力関係があります。	町担当職員とは、運営推進会議や町グループホーム連絡会で、意見交換や情報共有が行われている。家族等からの苦情の対応方法や医療費控除についての助言を受けるなどしており、協力関係は築かれている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年 4月18日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない方針を重要事項に明記し、契約時に家族に説明している。身体拘束マニュアルを参考に職員は周知している。玄関は鍵を閉めず、いつでも外に出られるように、入居者が散歩、花壇の手入れを行っています。	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。「転倒防止のために、ベッド脇に車椅子やポータブルトイレを置いている事も、行動制限に当たるか？」について職員間で話し合っている。管理者は身体拘束や虐待防止等について職員研修の必要性を課題としている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止資料を参考に、職員とミーティング時に入居者の安全について話しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を参考に職員は勉強している。職員は入居者一人ひとりを理解し意思表示が難しい方は家族との話し合いを通じてケアを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に御家族に見学に来ていただき説明を行い、契約時にも説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが記入者はいない。御家族はよく施設に来所されているのでコミュニケーションを図り意見を言ってくれます。	運営に関する意見や要望は、利用者は日々の会話の中で、家族からは訪問時や介護計画作成時に聴くようにしている。「面会者名簿があると、家族としては面会者の把握ができるので助かる」との家族からの意見を受け、個人情報に配慮しつつ、面会記入様式を設置することになっている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年 4月18日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は意見や提案があるときは管理者にいつでも話してくる、又朝の申し送り時に話すこともあります。会議で話し合う機会をもうけています。その都度対応しています。	職員は、申し送り時や気付いた時点で何時でも管理者に意見や提案をしている。職員から「浴室や脱衣室は湯煙だけの暖房では不十分である」との意見があり、今冬に暖房機を設置した事で、快適な環境が整い、利用者の入浴ケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の意見、提案、職場環境の把握に努めている。代表者に施設状況報告し改善が必要な時は伝え取り組んで頂いています。資格修得支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内で認知症の方への対応、接遇について身体拘束について等の勉強会を行っています。2号店(有料老人ホーム開設)へ研修。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護職交流会(沖縄市)に参加し仲良くさせて頂いています。北谷町役場にてグループホーム連絡会を行いイベントや認知症啓発について話し合う機会があります。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族が来所時に本人も一緒に希望・要望を聞き答えられるようにしています。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年 4月18日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が来所時に本人も一緒に希望・要望を聞き答えられるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族が来所時に支援内容を考え、その内容を他の職員と考えを伝え対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様に寄り添い話をよく聞いて、レクレーションを楽しんだり、行事等を家族と一緒に楽しみ、共に過ごすことに楽しんでいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族は気軽に来所され、一緒に過ごしたり、職員との会話で日頃の様子を聞いたりしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との写真を部屋に貼り見たり、外出で近所の方と挨拶したり、職員が昔の話を聞いたりとお過ごしています。	馴染みの人や場との関係継続として、元学校事務の利用者を、その当時の勤務先訪問に付き添い、思い出の校庭木に触れさせたり、また米軍基地に馴染みのある利用者を、家族の協力を得て基地内訪問する等、これまでの関係が途切れない支援に努めている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年 4月18日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合う方同士を席の配置を工夫し、トラブルにならないように職員が間に入り会話を楽しんでいます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた方の家族から野菜の差し入れがあったり、電話があったりして最近の様子を話すことがあります。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	声掛け、話を聞いたりして希望、意向に努めています。	利用者の意向や希望は、日々の支援の中で把握に努めている。「家に帰りたい」と訴える利用者には、家族への面会依頼や職員との外出で気分転換を図る事もある。遠方の家族とは、職員がタブレットを利用した交流の工夫もしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様の会話の中に、これまでの生活の様子、家族の話聞いて生活に活かしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中、夜間の様子を記録、バイタル、排泄等記録し申し送り、記録を確認しながら心身状態の把握に努めています。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年 4月18日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員から毎月本人の最近の様子、意見を確認し合い介護計画を作成しています。	介護計画には「薬の居宅管理指導」「家族との外出」「心配性の方に家族の安否を伝える事」等、家族の意見が反映されている。担当職員の意見を中心に毎月モニタリングを実施しているが、介護計画における課題の明確化や支援の実施記録の様式改善を課題としている。	介護計画の課題を明確にするとともに、介護計画に反映することを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を確認し変化があれば見直しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の状況に合わせて勤務体制時間を職員と検討し対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園の子供たちが敬老会に来てくれたり、近所の方からの野菜の差し入れがあったり少ずつですが関係作りができてきています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際は家族、施設職員が同行し診察がスムーズに行えるように対応し日頃の様子、変化等を報告し職員、家族一緒に症状の把握に努めています。	殆どの利用者がかかりつけ医を継続し、受診や診察もスムーズに行われている。受診時は家族や職員が同行し、職員が口頭や文書で医師との情報交換をしている。訪問診療の利用者が1名いる。看護師が、薬の管理や情報提供、健康相談を行っている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年 4月18日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師には、入居様の変化があれば相談し、入居者様の症状について報告しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には日頃の様子、ADL、服薬状況、病歴を伝えています。お見舞いに行き症状の把握、看護師にも伝え担当相談員と情報交換に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に御家族に説明をし、症状に応じて、ご家族主治医と相談しています。	「医療連携に係る指針」、「重度化・看取りに関する指針」をもとにして、重度化や終末期に向けた方針を入居時に家族に説明している。看取りについての職員研修や訪問看護利用への取り組み、医療連携の充実を図ることなどを検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルがあり、急変や事故発生時に対応できる体制である。公民館での心肺蘇生訓練に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内にて消防隊員による指導で避難訓練を実施。公民館で消防隊による土砂崩れ危険区域説明会に出席。	昼夜想定避難訓練や自主訓練を実施している。地域住民には、日頃から文書や口頭で非常時の協力を依頼している。自動火災通報設備や自家発電など完備し、3日分程の食糧も備蓄している。区の防犯訓練に職員が参加している。	



自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年 4月18日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入居者様への話し方や態度に十分に配慮しながら対応しています。	職員は、利用者の顔を見て声を掛けたり、耳元でゆっくり話したり、ボディタッチをして話しかけるなどし、「待つて」を使わないよう心がけている。英語や方言での会話に安心する利用者には、片言での英語や方言で対応している。居間ではパーテーションを利用し、プライバシーにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の状態に合わせ、ご本人にわかりやすい言葉で話し、自己決定しやすいように対応するようにしていますが、気持ちを上手く伝えきれない方もいるので十分とは言えません。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは基本あるのですが、一人ひとりのペースがありますので気持ちに添って対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧・訪問美容カットを行っています。外出の際や、行事等はおしゃれ着を来て一緒に楽しんでいきます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きや片付けを一緒に行ったり一緒に食材の買い物に行ったりします。	毎食職員が調理し、利用者は食材の下準備や味見、食器拭きなどに参加している。「刺身や芋が食べたい」、「白米よりは赤飯が好き」などの嗜好を把握し、献立に反映させている。利用者は各々、居間や台所のテーブルで食事をし、職員も一緒に摂っている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年 4月18日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量を記録し、食べたいものを聞いてメニューに取り入れ、又水分摂取量が少ない方には好みの飲み物を提供したり、おやつにゼリーを提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で困難な方は職員が手伝い、口腔内の状況確認し必要な方は歯科往診を行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員が排泄記録を行いパターンを把握し、必要な方には時間を見てトイレに案内しています。日中は皆さんトイレで排泄を行うように支援しています。失敗があるときはシャワーに入って清潔保持に努めています。	日中は、利用者全員にトイレでの排泄を支援しており、夜間は利用者の状況や睡眠状態に合わせて、トイレやポータブルトイレを利用している。排泄の自立に向け、生活の中で立位保持につながる歩行訓練やボール遊びなどを取り入れ、機能維持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に努め、食事の際によくフルーツヨーグルトを提供しています。食物繊維の多い食材を使用するようにこころかけています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	高齢で乾燥が目立つので週4回～毎日と個々の身体状態に合わせて入浴を行い清潔に努めています。	入浴は週4回としているが、希望者には毎日の入浴を支援している。入浴を嫌がる方には、理由を推察して日課の中で柔軟に対応している。同性介助を基本に支援し、着脱衣や身体を洗う等、本人が出来ることはやってもらっているようにしている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年 4月18日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や気分により自由に休めて頂けるように対応しています。夜間は見守りを行い安心して頂けるように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当職員は入居者様のお薬内容を把握し、処方内容が変更があった場合職員皆で情報共有し服薬後状態観察をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事が好きな方、外出が好きな方、カラオケが好きな方の個々の楽しみを把握し生活して頂けるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気、体調をみて買い物に行ったり、散歩、花壇の前で日光浴、花壇の雑草取り水かけを行っています。家族様は病院受診の際、外食されたり、正月、お盆時には自宅で一緒に過ごしたりして協力して頂いています。	日常的に事業所周辺の散歩や近くのビーチ、コンビニへの買い物などに出かけている。天候や利用者の状態により、玄関先での外気浴も支援している。利用者の希望により、ファーストフード店への外出、町民運動会の参加、自宅訪問などの外出支援が行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理はご家族様にお願いして頂いています。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成29年 4月18日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の行事に合わせたものを置いたりします。	居間兼食堂には、数台のテーブルやソファ、ベッドなどを配置し、利用者がそれぞれの場所で過ごせるよう工夫している。体操やボール運動、カラオケ、談笑したり、横になりくつろいだりしている。床の間には一般家庭のような飾り物が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者様同士の席の配置に工夫したり、休みたい方は静かな場所で休んで頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には写真を貼ったり、ご家族様より本人の自宅にあったものを持ってきていただいています。	居室は、それぞれ壁紙やカーテンを変え、自宅に近い雰囲気作りをしている。各居室には手すりやベッド、エアコン、タンス等が設置され、利用者は、ラジオや電気スタンド、使い慣れた寝具類を持ち込んでいる。利用者の心身の状況によって居室換えを行うこともある。ポータブルトイレに布を掛けるなどの配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、廊下、浴室、居室には手すりを設置し、ベッドの配置も工夫し安全に過ごせるように工夫しています。		

(別紙4(2))

事業所名 : 認知症対応型グループホーム 結の郷

作成日 : 平成 29 年 4 月 27 日

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4(3)	運営推進会議 前28年度は職員の体調不良、入居者の体調不良が続き8月予定されていた会議をキャンセルとした。議事録の公表ができていない。	概ね2ヶ月に1回以上、年6回の開催を実施する。運営推進会議報告、会議で行われた意見や日頃の様子を地域やご家族へ定期的に報告しホームの理解をして頂く。	入居者、職員の体調管理に努め、又開催予定月(偶数月第4火曜日)に行えない時は翌月に実施する。ご家族がいつでも内容を見れるように回覧する。	12ヶ月
2	26(10)	介護計画の課題を明確にするとともに支援の実施記録の様式改善を課題としています。	介護計画の課題を明確にすること、介護計画に反映する事。	入居者、家族とよく相談し課題を明確にし支援に向けた介護計画を作成し、支援の実施記録の様式を改善する。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。